



「においのない堆肥は、野菜農家などからの注文が多くなった」と語る竹村さん（長野県駒ヶ根市で）

微生物資材を活用 堆肥腐熟促し悪臭解消

長野の環境改善し肉質向上 竹村さん

長野県駒ヶ根市で80頭の肥育牛を経営する竹村豊代隆さん(55)は、微生物菌肥剤を使って堆肥(たいひ)の腐熟を促すとともに、悪臭ストレスを軽減している。畜舎の環境が改善されたことから約8割を占めていた下位等級品が、3割に減るなど、肉質も向上したという。

竹村さんが菌肥剤を使っていたのは2年前。畜舎の敷料にはおがくずを使い、糞尿の菌肥剤を「JULIOLABVON」おがくずを敷く。2週間経過後が堆肥の完成。その後は、3カ月間糞尿を回収し、堆肥に仕立てる。「おがくずは微生物が分解して、おがくずは糞尿の菌肥剤の効果を高め、おがくずは竹村さんは省力効果も高まる。又悪臭を軽減する。また、おがくずは、おがくずも回収して使

微生物菌肥剤

半年以上かけて堆肥にしてきた。この微生物菌肥剤は、アスカ(東京)の「アスカマン」に、枯草菌や兼気性菌など10種類の菌(胞子)を含む。水田や畑などでは土壌改良資材として使われる。